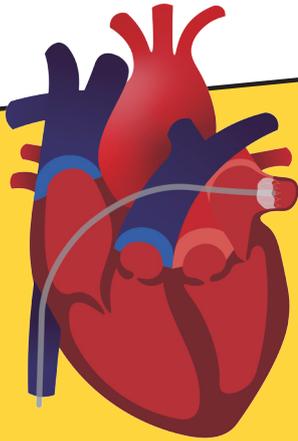


# Watchman

## 左心耳閉鎖術



### 抗凝固療法フリーの これからの心房細動治療

#### 01

#### 心房細動における脳塞栓と 出血性合併症

心房細動による脳塞栓症は、致命的になるあるいは高度の後遺症を残すことが多く、多くの患者さんは脳塞栓を予防するために、抗凝固療法(DOAC、ワーファリン)の内服が必要になります。一方で、長期の抗凝固薬の内服は、脳出血や吐下血といった重大な出血性合併症を起こす危険があり、諸刃の剣となっています。特に高齢者では出血のリスクが高く注意が必要です。

#### 02

#### カテーテル治療で永続的な抗 凝固療法が不要に!

このジレンマを解決すべく登場したのが経皮的左心耳閉鎖術(Watchman)です。心房細動により生じる脳塞栓のほとんどは、左心耳内のできる血栓であることが知られています。この左心耳

を閉鎖してしまうことで、抗凝固療法なしで、脳塞栓症を予防しようというカテーテル治療です。当院でも2019年から治療可能となっております。一部の臨床試験の結果で、抗凝固療法継続よりも死亡率が有意に低下したことに加え、様々な良好な結果が報告されてきたことで、当院を含め、国内外で今、急速に手術件数が増えております。



Boston Scientific社Websiteより

03

一般的な  
Watchman  
入院の実際

POINT

入院は短期間！  
4泊5日

【事前外来】

外来受診:適応評価  
造影CT検査/経食道超音波

【入院】

1日目: 手術前日/入院

2日目: 手術当日

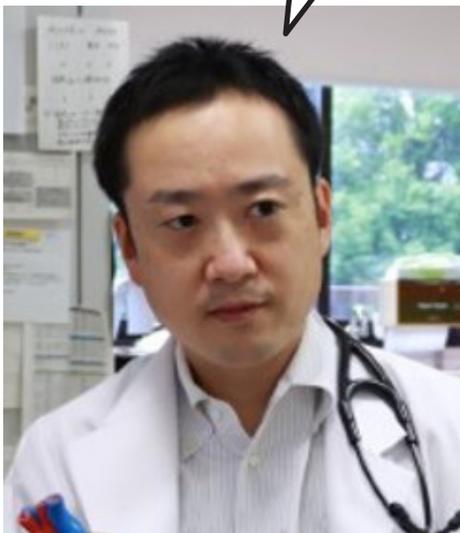
手術は全身麻酔で1-2時間  
(手術室入室から退室までは  
2-3時間)

術後は一般病床に帰室します  
術後5時間程度で歩行可能!

3-4日目: 術後検査  
レントゲン/心エコー/  
血液検査など

5日目: 退院!

Watchman担当の  
塩見紘樹(しおみひろき)です。  
対象の患者さんがいらっしゃ  
ったらぜひご紹介ください!

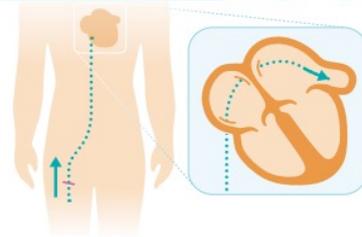


04

一般的なWatchman  
(左心耳閉鎖)の治療の流れ

WATCHMAN FLX™ による治療の流れ

- WATCHMAN FLX™を留置するには、脚の血管に小さい切れ込みを入れてカテーテル(細い管)を挿入します。
- 血管の中にカテーテルを通してWATCHMAN FLX™を左心耳まで運び、適切な位置で留置します。
- 手術は全身麻酔下で行われ、約1時間を要します。WATCHMAN FLX™を留置した患者さんは、一般的に手術の翌日から歩行が可能です。
- 手術後、左心耳の適切な閉鎖が確認されるまで抗凝固薬を服用します。通常は手術後から約45日間服用します。
- 時間の経過とともに、留置されたWATCHMAN FLX™の表面が内皮化されることで左心耳が閉鎖されます。  
\*完全に閉鎖されるまでの期間や内皮化の程度には個人差があります。



Watchman の適応

下記の2つを満たす患者さんが対象となります。

- ①脳卒中および全身性塞栓症のリスクが高く、抗凝固療法が推奨される患者  
**抗凝固療法中の心房細動患者さん**
- ②抗凝固療法を長期間実施できない医学的に妥当な理由を有する患者 (HAS-BLED スコア 3点以上の出血リスクが高い患者等)  
**長期の抗凝固療法を出血のリスクから避けたい患者さん**

\* HAS-BLED スコア : H=高血圧、A=肝 or 腎機能障害、S=脳卒中、B=出血、L=不安定な INR (ワーファリン内服中)、E=年齢 65 歳以上、D=抗血小板剤 or NSAIDs 使用もしくはアルコール依存

こんな患者さんがいらっしゃいましたら  
ぜひご紹介下さい!

心房細動・抗凝固療法中に...

- 出血の既往がある方  
(脳出血・吐血・下血など)
- 最近、出血でお困りの方  
(貧血・脳出血・吐下血)
- 脳梗塞を来し、再発予防を強めたい方
- 長期の抗凝固薬内服をやめたい方 など

適応かどうか悩まれる症例なども外来にて判断させていただきますのでお気軽にご紹介ください!!